



ええやん新聞「市民広報記者」を逆取材！

これまで12年間で、入れ替わりながらええやん新聞の記事を書いてきた「市民広報記者」のみなさん。広報紙制作に携わったきっかけややりがい、大変だったことなどについてお話を伺いました。



歴代市民広報記者有志のみなさん / Photo: クワシー優子

藤山「この「ええやん新聞」という名前も私たちが考えたんです。山口市民向けに発行するのになんで大阪弁？ って意見

市民活動を発信して12年

平井 決まっているのは「さぼらんてから市民活動を発信する」ということだけ。誰を取材する？ どんな内容を載せる？ など記者たちの「伝えたい」という思いを大事にしてきました。

平井 きっとみんな何かやりたいと思ってるんじゃないかな。ええやん新聞がそのきっかけになればいいなって思うんです。「市民活動の感動を発信する」ことを方向転換せずに12年も続けてくれて、本当にうれしいです。

さぼらんて 開設20年、ええやん新聞 創刊12年。



ええやん新聞って いろんな新聞？

平井 ええやん新聞は12年前、山口市商店街のガイドブック『もつちよき』の制作に関わったメンバーで「さぼらんて」で市民活動を発信する広報紙を作ろう！という流れになって作り始めたんですよ。内容などは0から考えましたね。



藤山(創刊-7号)

元さぼらんてスタッフ 平井(創刊-5号)



ヤマデラワカナさん

ええやん新聞の特長は、市民活動についてよく知らない、市民に近い「素人」記者が、市民活動について知ったときの素直な感動が描かれているところ。でも、素人の感動を読み手にうまく伝えるためには素人を支えてくれる「素人プロ」の存在が欠かせません。

プロが活かす 素人らしさ

素人のサポートあってこそ



大内絵美さん

作に携わっています。「1号から関わっているのに、何も覚えてなくて(笑)よかったことは、私がイラストレーターのソフトをちよっとだけ使いこなせるようになったことですかね」と謙遜するワカナさん。

また、デザイン制作会社勤務の大内絵美さんは、6号から関わってくださっているアドバイザ。読者ターゲットを子育て世代に絞り、ええやん新聞の方向性を定めてくださいました。現在も、毎号素人記者たちが思い思いに書いた記事を、読者がわかりやすく読めるよう、しかも記者の思いを削ることなく、うまく世に出してくださいます。「編集の仕事に関わっている私

記者の感動をこれからも

は歴代の記者さんとの出会い、私の方が逆に勉強させていただくことが多い、初心に返ることばかりです。一人ひとりの取材のポイントや文章の良さが少しずつ違って、情報を作っていくことって「人の仕事」だな、と実感しています。記者さんたちを尊敬しています。」

創刊から12年。記者19名、スタッフ5名の感動を詰め込んだええやん新聞は、発信する内容はもちろん、読者の情報の受け取り方やワークライフバランスの変化に合わせて紙面を改善してきました。でも、創刊からの「素人記者の感動」は変わらず発信していきたい。これからも私たちのまちならでは「ええやん」を伝えていきます。

インスタで情報先取り！



市民広報記者が発信するええやん新聞のInstagramを開設しました！取材の裏側や、紙面では載せきれなかった情報など、本紙と合わせて楽しんでいただけます。ぜひフォローしてね！

#ええやん新聞



ええやん新聞 第25号のテーマは...

子どもたちへ残したい 持続可能な社会

次世代を担う子どもたちのために今、私たちにできることは何だろう？ 25号では「SDGs」に絡め、山口市の未来を考えます。

2022年2月1日発行予定！



ええやん新聞は「誰かのために、みんなのために」と頑張っている人のお話や、山口市のお役立ち情報などを集め、自分にできることを考え、行動するためのヒントを読者のみなさまにお届けします。

発行元 / 山口市市民活動支援センターさぼらんて

〒753-0047 山口市道場門前2-3-6 どうもんビル1階 TEL:083-901-1166 メール: info@saporant.jp



さぼらんてホームページ

社会復帰に活きた 記者の経験



ええやん新聞って誰が書いてるの？

「市民広報記者」は子育て中のママたち

赤松 市民広報記者（以下・記者）って、誰かのために何かのために活動している人や団体を取材する人のこと。実はきぼらんの造語なんですよ。

千々松 記者っていうと、すごいことやってる！ってイメージだけど、ママたちの楽しいサークルっていう感じだったなあ。新聞づくりに関わることで、誰かと目的を持って何かを作り上げることの楽しさを教えてもらいましたね。

きっかけはつながりと一歩踏み出す勇氣

弘谷 私が記者になったのは、娘が3歳の頃でした。娘と一対一でずっと一緒にいるのはほしい…と思っていたところで誘われたのがスタートだったかな。

蘭光 私は24号から記者をさせてもらっています。私も、妊娠してから仕事をしてなくて主婦として満足していたんですが、先輩記者の海原さんから「やってみない？」と声をかけられたのがきっかけになりました。

石田 私も子育てだけしていたとき、知り合いからのつながりできぼらんに呼ばれて記者となり「文章なんてとんでもない！」と不安で挑みました。最初の号ができたときはとても感動したのを覚えています。



ママではない「私」に戻れる時間だった

弘谷 週に1回、子育てとは違う場所に行くと人と会話するという場を提供してもらえたのはすごくよかったですね。「ママ友」ではなく、私自身を見てもらったことで、子育てに押しつぶされなくて過ごせたのかなと思います。

石田 仕事を何もしていなかったときから、ええやんをステップに本格的な仕事復帰に移っていったので、背中を押してくれた位置づけだったんですね。

吉富 私も、子育てで自分自身のコントロールが効かない中、「私」としてフェアに自分に向きあえる場所があったことにすごく救われていました。大変だったこともあったけど、記者として活動できた3年間には感謝があります。



子育てと記者、大変さを実感

文字で伝えることの大変さを実感

立川 24号から記者として関わらせてもらっていますが、一枚

の広報紙を作るのがどれだけ大変な作業なのかということを実感しました。取材させていたいただいた方たちの考えや思いを、うまく記事にして読み手に伝えることがとても難しかったですね。



記者をやってよかったことは？

記者の経験が今の自分に活かしている

岡部 社会に出るまでの一歩になりましたね。疑問に思ったことを抵抗なく尋ねられるようになったかな（笑）

弘谷 ああ、わかる。生活の中でも、人に伝えるために文章校正した経験が、娘に伝えるときに「こういう風に言ってみよう」と活かせるんですね。

藤山 ええやん新聞を通じて学んだ「人を知る」という経験が不動産の仕事に活かしていると感じています。自主的に、自由に行っているという点も、自由に行っているという点も、広報紙づくりを見守ってもらえたことがよかったな。実行するためにどういう風にやればいいのかを考えることが一番大事だったのかも。子育てにも通じるものがありますね。

次に向かうステージへのステップに

石田 私は10号で子どものための暴力防止プログラムを提供している団体「C.A.P西京」を取

材して「こんな活動があるんだ！」と衝撃を受けました。すぐにC.A.Pスペシャリストの資格を取らないと気持ち揺らいでしまうと、東京まで行って資格を取りました。そして、この時の記者3人で「みんなでC.A.Pやろう！」とC.A.P西京に入り、今は一緒に活動しています。今につながっているんです。記者をやった一番よかったのは記者のみんなと知り合えたことだと思っています。

吉富 私は記者をしている時に公務員試験にチャレンジしました。筆記試験で記者として学んだことを活かすことができ、今は学校事務として働いています。職場でも、いろんな児童がいるけれど、取材の経験のおかげで「こんな子もいるんだ」という捉え方ができるようになりました。

黒崎 みなさんすごいなあ！私は今年から記者になったばかりなので、まだできないことばかりですけど、自分でできることをしていきたいと思っています。そして、社会に出る前にここで頑張ろうという気持ちです。



●歴代市民広報記者の取材を終えて（さぼらんてスタッフ 藤岡亜希子）

私も週イチ記者をきっかけに「私」の時間を取り戻した一人です。現在はさぼらんてスタッフとして市民活動団体を支援する仕事につながりました。歴代記者のみなさんと同じように、記者としてのスキルや経験を得たこと、そして素敵な人たちに出会えたことはプレジレス。9年前、「できるかわからないけど、チャレンジしてみようかな」と記者として一歩踏み出した自分に感謝です。

▼ええやん新聞は主にこれらの分野においてSDGsに取り組んでいます



ええやん新聞ができるまで

●どんなテーマにするか話し合う

●だいたいの紙面構成を考える **誰を取材するなども決めます！**



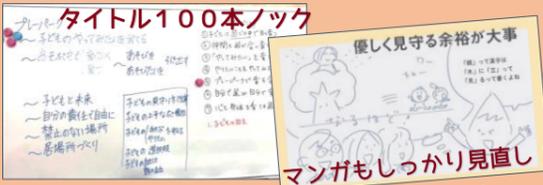
●テーマに沿った人や団体を取材する



Zoom取材もお手の物！

●記事を書く

●仮紙面で読みやすくなるよう何度も直していく



タイトル100本ノック

マンガもしっかり見直し！

●取材先に記事を確認してもらう

●最終チェック

●入稿

●印刷

半年かけて完成！感動～♡



●納品 → 数えて配布、配達 **30000部を全部記者が数えます！**



●読者のみなさんに届く

クイズの答え送ってね！

●モニター会議

読者の意見を次号に活かします



次号をさらにいいものに…

to be continued...